

園庭に於ける遊びと動きの調査

感應幼稚園 青柳節子

四二

園庭に於ける園児の自由遊びは、その文字の示す如くに自由奔放であつて、保姆の、誘導乃至指導云はれるやうな子供への働きかけが最も少なく、子供自身で、自由自在に駆けまわり、次々に遊具を代へて遊んで行く。従つて、その遊びにも、遊びのグループも雑然とし、集合離散が激しく、一人々々を観察する場合は、誰れも彼れも、精一杯元氣に遊んでゐるこゝだけは解るが、多數の園児が入り亂れて遊んでゐる全體を眺める場合は、實に雑然としてゐて、観察するにしても、掴み處がなく、漠然とした感じである。

然し、自由奔放な園庭に於ける自由遊びにも、何か特徴があり、また備へられた各種の遊具から、遊具へ移つて行く子供の遊びにも、一定の流れも云ふべき法則の様なものがあるこゝが考へられるのである。此の調査はそれ等の特徴なり、法則なり、を發見し度いこゝ考へて實施したものである。斯うした方面を研究調査せられたものが、他にも

種々あるこゝと思ふが、園庭の坪數、園舎の場所、運動具の配置並に利用する園児數等々、その情況に依つて、調査の結果も異つて來ると思ふ。御參考までに本園での調査の結果を發表させて頂き、併せて諸賢の御意見を伺はせて頂ければ誠に幸ひである。

調査は六月と九月の二回實施したのであるが、その結果は大體同じであつて、特に異つたものが發見出來なかつた點から見て、本園々庭に於ける平常日の自由遊びの調査として、稍々正しいこゝが實證出來た、便宜上六月下旬の調査だけを此處に掲げるこゝにする。

調査は、晴天微風、室温三十二度、園庭樹蔭三十度、汗ばむ梅雨の時期である。新入園児も幼稚園の生活になれ、團體的な訓練も一通りは出來た頃で、自由遊びも活潑で、一人でぎんぐ遊んで行くやうになつてゐた。然し、調査當日は、平常相手になつて遊んで下さる先生が、成るべく、子供の自由意志に依る遊びを調査したい爲に、積極的

に遊びに加はらなかつたこと、調査記入の役目のものが、一定の配置に着いて立つてゐたので、子供も初めは一丈異様に感じたが、適當に説明して調査を意識させないやうに努め、調査記入の正確を期したのである。

一、園庭の概略

調査に必要な園庭と運動具の配置を左に大體述べることにする。

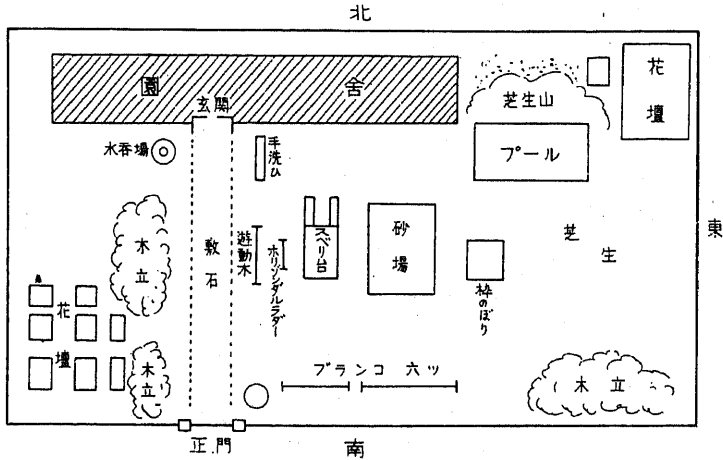
總敷地約一千二百坪、園舎敷地を除いて遊園として實際に利用してゐる處は八百坪前後と思ふ。南正面に正門があり、園児昇降玄關まで大體直線に敷石を敷く。然して、玄關から見てその敷石の右側が木立並花壇、左側が運動具が集置され、芝生に續き、園児は登園の場合、園庭を突切るので庭全體が見られるやうになつてゐる。水呑場及手洗場は玄關の兩側に設備されてゐる。下圖は園庭と運動具の概要である。

一、園児の昇降により見たもの

此の調査は午前八時頃より、元氣よく正門より駆け込んで來る園児達が、先づお辨當道具をお部屋に片付けて來てから、必ずお庭へ遊びに出てゆくことにしてゐるが、その遊具を目當てに行くか、何を目的にするかを確めてみた。

男兒は大體砂場へ、女兒は先づブランコへ向つた方向へ行くことが解る。女兒のブランコを好むことは、ブランコ

のリズム運動が適してゐること、男兒は砂場の構成的な遊



一時九時十		一時八時九		間 時	
女	男	女	男	別 性	場 砂
5	9	4	13		場 砂
0	2	5	3		臺 滑
6	1	12	2		コンラプ
0	0	0	1		木動遊
1	3	4	13		生 芝
0	0	6	5		他 其
12	15	31	37		計

調査園児百名

95

びを好んでゐる結果であらう。

そして、男女共その半数は遊具目指して駆けて行くが、特に早く登園する子供は遊具の獨専する競争者もゐないのに駆けて行くやうだ。而して九時近くなるに従ひ、きの遊具にも全部大小様々のグループが出来て、遊具をそのグループで占められてゆくのであるが、この時刻から以後に來たる子供は、遊具の選擇に躊躇する傾向があつて、玄關を出てから駆け出さず、又眞直ぐには歩かない。即ち、目的がはつきりせず、色々な曲線を描いて歩いてゆき漸くここかへ落着くものが多い。殊に何ら當てもなく芝生の方へ行き、一巡して戻つて來るものが多くなる。これを見て登園の時間は注意すべき點と思ふ。

一、水呑み場並手洗場から見たもの

一時十時一		一時九時十		一時八時九		間 時	
女	男	女	男	女	男	別 性	場 水
20	13	24	39	6	3		場 水
8	8	22	11	6	0		場 洗
17	8	11	13	3	3		へ關玄 る 戻

には砂場から來て手を洗ひ、再び砂場へ歸つて行くものもあるが、大體は手洗場へは砂場遊びを中止して、別な遊具へ移る子供が大部分である。水呑場へは、何れの遊具からも集散するやうだ、従つて、手洗場は砂場の側に、水呑場は各遊具の中心に配置すべきか考へられる。それから、九時—十時に至れば、男女共に玄關に戻るものが多くなるが、全體に動作は緩慢で疲勞が見られる。朝より、外庭での自由遊びを繼續させた場合は、この時刻頃より、氣分を一轉させて靜的な遊びに誘導すべきであらう。

一、遊具の利用者數と遊具間の動き

調査の時の詳細な個人々々の歩行線を描いた圖解があるが、非常な枚數になるので略す。

初夏云へ、八時から九時の間は此水呑場も閑散であるが、九時乃至十時に至れば斷然繁昌を呈し、活動量の多いだけ男兒の方が女兒よりはるかに多く集まる。次に手洗場へは、反對に清潔感の強い爲か、女兒の方が男兒より多く集まる。なか

○砂場

性別	八時—九時	九時—十時	十時—十一時	計
男	五四	三四	三一	一一九
女	五三	四一	三三	一二七

調査園児百名

右表で見られる如く、九時までの間に全園児數と同數の者が砂場に遊んでゐる。従つて男子は砂場から他に移り、女兒はブランコを経て砂場に至るものと見るべきである。

○ブランコ

性別	八時—九時	九時—十時	十時—十一時	計
男	一七	二五	四五	八七
女	三一	四九	五二	一三二

男児に比し女兒斷然多數なり。

○滑り臺

性別	八時—九時	九時—十時	十時—十一時	計
男	一九	一七	五一	八七
女	二	〇	二一	二三

この日、ロープを持つて滑臺に登り様々に利用す。女兒

加はる者少し。

○遊動木

性別	八時—九時	九時—十時	十時—十一時	計
男	一一	一五	一六	四三
女	二	一一	二二	二五

力を要する爲男児多し、砂場より移つて來る者大部分である。

○此他枠のぼり、太鼓橋、トンネル等々の遊具は比較的に利用者少數なれば略す。

砂場、ブランコは利用者最も多く、滑り臺、遊動木、其他の順位になる。この日の滑り臺の利用者は、綱引き用のロープを利用して遊んだ爲めに、割合に多數にのぼつた傾向があつたが、平常は比較的少數の利用者に留るものと思ふが、他の道具を併用する事に依つて、利用者の増減はかなりはげしいといふことも考へられる。利用者數其利用の順序から見て、園児昇降により正面等分の距離にブランコ、砂場を配置し、左に廻りに滑り臺、遊動木を配列することが良いと思ふ。調査圖の歩行線の流れが、芝生方面を巡つて來る子供の歩行線は全體に、右から左へ廻つて歸つて來るものが多いのを見て左へ向つて配列し度いと思

(一九頁へ)

指導を受けてゐる結果ではあるまいか、もつゝ兒童の全體的活動に數の方面が織り込まれて指導されなければならぬ。他所行の數、數のための數、全體的活動から分離された數の指導では實踐力の伴はない死んだ數知識の蓄積に終つて了ふ。それは決して根柢的な基礎教育者ではないのである。

數計算の抽象過程として誰もが指の使用法を教へるが、誰もが早く指の使用から離れさせようと思へる傾向がある。之は大變の誤りである。指の合理的指用法を研究して丹念にその使用法を指導しそれに馴れさせることが早く指から離れさせる最も有效な方法である事を思はない。數算が普通の筆算式暗算より如何に容易にして且つより有力の暗算法であるかは既に衆知の事實である。九から三を引く場合、右手の五指を左手の四指を想起し、左手の四指中三指を屈した後の指數を想起すれば難なく六が得られ、九から六を引くやうな場合、右手の五指を左手四指中の一指を屈した時の指を想起すれば之又容易に三が得られる。斯様にして指を用ひた數象を明確迅速に想起し得るやう指の使用法を計畫的に教へ、其の使用に馴れさせる事が最も早く指の使用から離れさせる近道なのである。

要するに幼兒の教育に於ては分離された分科的知識は絶対に之を避け、知識技能は飽迄具體的活動に統合されて取

扱はれなければならない。それが取りもなほさず、實踐力の伴ふ眞實の知識技能の根柢に培ふ所以であり、幼兒教育の基調をなすものと思ふ。單に數理方面の指導といふ立場からしても、尙小學算術書の根本的な刷新體系に鑑みしかあらねばならぬ事を強調しなければならない。

(四五頁より)

ふ。また遊具間の移動の場合駈けて歩く子供が非常に多いので、ブランコの振動中に注意して特に片寄せること、本園の砂場の位置が、滑り臺と芝生の中間にある爲、砂場を通りぬけて芝生へ行く者があるので砂場の位置は最も、考へさせられる。

大略以上の様な結果を見る事が出来たが、外庭での遊びに主力を注いでゐる本園としては今後大いに右調査を基調として改善して、益々保育の充實、幼兒の保健に邁進し度い考へである。